



【解説】洪水対策を目的に、かつての北方の自然を復元し、多様な動植物の生育環境を管理する調節池。年間100種類以上の野鳥が飛来。

「美しいまち並み協定」特集！！

～まち並みを花と木でつなぎ、ご近所さんともつながろう～

【美しいまち並み協定とは!?!】

ご自宅の庭先や通り沿いを花や樹木で彩り、美しいまち並みの景観を地域に広げていく市民主体の取り組みを推進するために、市が樹木と花苗を支援しています。

※ご近所にお住まいで3軒以上の方々の協定締結が原則対象です。 ↑協定サイン(1軒につき1枚)

●支援内容

種類	数量	時期
花苗	1軒につき24株/回	3回/年(※3年間)
樹木(シンボルツリー)	1軒につき1本	1回
協定サイン	1軒につき1枚	花苗と同時期



玄関の階段スペースを有効活用している事例。



空間を利用して飾ることができる「ハンギングバスケット」の事例。

樹木(シンボルツリー)を鉢植えで飾っている事例。



協定締結者の声

まちがキレイになると、気持ちが良いです。

散歩中に「協定サイン」を見かけ、その住民に声を掛けてみた。その後、自分も近所の人達とやってみようと思いました。

作業していると、声を掛けられることもあり、励みになります。

花を通してご近所付き合いができると思います。もっと友達の輪が広がると良いと思います。

他の方がどんな植え方をしているか参考に見たいです。

小学校の通学路に面したとおりなので、キレイにしたいです。子どもの情操教育にもなるかも？

通りに面した花壇に植えている事例。



駐輪スペースにプランターを並べている事例。



真間地区の景観まちづくり

真間行灯 ライトアップ

真間地区では、昨年7月に手づくりの行灯で弘法寺の石段を照らす「真間行灯ライトアップ」を初開催しました。

これは、地域の方々にとって大切な空間である真間山弘法寺に夜の景観を演出することによって、地元住民の地域への愛着を深めることや、参道の商店の活性化を目指して始めた景観まちづくりです。



手づくり行灯のライトアップ



自分たちの手で
行灯を並べました♪



子どもたちと
大学生と一緒に
行灯をつくり
ました☆



市川ゆかりのバンド
によるライブ



浴衣の着付け



アイスクリーム
等の販売

今年も開催します！

平成28年7月24日(日)
行灯ライトアップ 18:00頃～
その他催し12:00～(予定)
会場：真間山弘法寺
是非皆さまお越し下さい！！

★まちづくりの顔 インタビュー ～真間地域編～



真間行灯ライトアップ企画
実行委員会委員長

大門通り商店会『肉の山崎』
二本松 正利さん

Q 昨年行灯ライトアップを初開催してみて、どのようなお気持ちですか？

A 行灯ライトアップ当日、見に来て頂いた方々が皆さん「きれい！」と喜んで下さって、反響があつて嬉しかったです。また、地域の皆さんにとって大切な場所である弘法寺という場所を介することにより、地域の方々との輪ができ、知り合いが増えてコミュニケーションがとれるようになったことが自分にとって一番の財産になったと思う。自分自身もすごく楽しみながら取り組むことができた。

Q 今後はどのように景観まちづくりを進めていきたいですか？

A ゆくゆくは大門通りの入口へ弘法寺まで行灯とほおずきを並べて、まち全体を明るく照らしてさらに賑わうようにしていきたい。

Q 真間山弘法寺は、どのような思いで行灯ライトアップをされていますか？

A 昨年より、石段横の木を伐採して大門通りのまち並みが見えるようにしたり、あじさいを植えたり、境内の景観整備を進めている。これは、「弘法寺を地域の憩いの場としていきたい」という思いがあるから。行灯ライトアップについても、その中の一つの取り組みだと考えている。

Q 真間山弘法寺は、どのような思いで行灯ライトアップをされていますか？



真間山 弘法寺
三浦 泰昭 執事長

Q 今後はどのように景観まちづくりを進めていきたいですか？

A ほおずき市と行灯ライトアップの相乗効果で真間を盛り上げていきたい。年に1回、いつもと違う風景がそこにあればいいなと思う。その風景を見て、訪れた方々がもう一度真間に来てみたいと思ってくれば地域が活性化するのはいいか。法事とお葬式だけではなく、(行灯ライトアップのような企画は)弘法寺だけではできないようなことを地域が協力してくれているからできると思う。今はスペースの提供だけが、まだまだ色々なことができるのではないかと思うし、これからはもっとしていきたい。

★地域がつながった！～真間行灯ライトアップ 3つのポイント～

1 まちへの思い



真間大門通りで肉屋を営んでいる二本松さんが、行灯ライトアップで「大門通りを活性化したい！」と思い立ちました。

2 仲間集め

行灯ライトアップを行うために、商店街の仲間呼びかけ、知り合いが知り合いを呼び、真間を盛り上げたいという思いに賛同した方々で「真間行灯ライトアップ企画実行委員会」が立ち上がりました。



3 運営資金

行灯ライトアップ実現には運営資金が必要なため、大学からの提案で、インターネット上の募金システムである「クラウドファンディング」に初挑戦！

行灯ライトアップ企画に賛同して頂いた方より寄付を頂きました。寄付者に対して、子どもたちが書いたイラスト付きのかわいいお礼状を送付しました。



真間地域の人々の地域を盛り上げたいという思いが実現！

地域の子ども～学生～大人がつながった！！

真間地域の皆さんの真間のまちを愛する気持ちがより一層強くなりました♪

お知らせ

森の音楽会 In わんぱくの森 (大町小)

シルクロード伝来・中国二胡と草笛による素敵なハーモニーを、緑豊かな森の中でお楽しみください♪

【日時】6月25日(土)

開場 13:00 / 開演 13:30 (終演 15:30)

【会場】大町小学校 わんぱくの森

☆参加には申し込みが必要です(6月20日まで)☆

主催:市川みどりの会 共催:わんぱくの森の会

申込み・問い合わせ fukurou@midori-kai.net

《わんぱくの森の会》

夏休みは森で自然と親しもう！

夏休みに親子で自然に親しみませんか？大町教育の森の会では、2つのイベントを開催します。

1. 親子の「伐採体験」

【日時】7月31日 10:00～14:00

2. 親子の「夏休み！虫と遊ぼう！」

【日時】8月21日 10:00～12:00

【会場】大町教育の森(大町153番2)

【参加費】ひとり200円

【募集人数】30名(親と5歳以上の子ども)

持ち物、服装の指定あり =雨天中止=

☆参加には申し込みが必要です☆

申込み・問い合わせ 大河内(090-8851-8281)

《大町教育の森の会》

「市川まち歩きガイドマップⅠ」完成!!!

市川のまちの景観の魅力、まち歩き楽しさをガイドマップとしてご紹介する「市川まち歩きガイドマップⅠ」が完成しました。お披露目の展示会と、第2号発行に向けてシンポジウムを開催します。

マツ・みち・まち 写真と資料展

「まち歩きガイドブックⅠ」ができるまで

市川南口図書館にて開催中～6月29日(図書館開館日)

まちcaféシリーズ9

「まち歩きガイドマップ」の出来るまで

【日時】7月21日(木) 【会場】I-Link会議室 18:15～20:45

連絡先 高木(047-705-4817)

《まちづくり家づくりcafé Ichikawa》

募集中!

イベント・協力依頼・募集など

景観まちづくりに関する情報をお待ちしています!

まちなかガーデニングフェスタ2016秋 参加者募集!

丹精込めた庭や花壇を、公開してみませんか？

【日時】10月8日(土)9日(日) 午前10時～午後4時

【申込方法】申込用紙(公民館等で配布)をまち並み

景観整備課へ提出。申込期日は7月15日(金)。

※詳細は申込用紙をご確認ください。

申込用紙は市公式WEBサイトからもダウンロード可



私の景観まちづくり

Vol.1

市主催のまちなか
ガーデニングフェスタ
(4月)に参加

このコーナーでは、地域で景観まちづくりの活動を積極的に行っている方々を紹介します。
第1回目は、**末広花クラブ**さんです。

「末広花クラブ」

東沖公園花壇の管理活動を始めとして、様々なまち並み景観活動に取り組まれています。



「美しいまち並み協定」にも参加しています。



活動拠点の「東沖公園」

あじさい園
を作るため
今年植栽し
ました。



初めて飾った鯉のぼり



手入れの行き届いた花壇には様々な花が元気に咲いています。



「フリーマーケット」も開催



Q. なぜこのような活動を始めたのですか？

A. 花や活動を通じて人と人のつながりを深めたい、地域の通りを花で飾りたいという思いがあり、第7中学校の通学路を芝桜できれいにしようというところから活動が始まった。

Q. なぜ活動を継続できているのですか？

A. 活動中に散歩中の方や通りがかりの方が、「いつもきれいなね」や「帰ってきて花を見るとほっとする」等声をかけてもらえることがモチベーションになる。

また、まちなかガーデニングフェスタに参加することで、普段の活動の成果を遠方からも見に来てくれる方がいることもがんばろうと思える励みのひとつとなっている。

Q. どのような思いでまちづくり活動をされているのですか？

A. 「花でつながるまち末広」をキャッチフレーズとして、現在それぞれ独自で行っている取り組み(点)を人のつながり(線)としてまち全体に活動を広げていきたい。

Q. 活動を続けていく上で課題や支障となっていることはありますか？

A. 人によって価値観が違ったり、顔を知らないことで近所の方に「草刈の音がうるさい」と言われてしまうこともある。
美しいまち並み協定も制約が多く、現在の4軒以上の広がりがないと難しいと感じています。もう少し気軽に参加できるものになるといいと思う。

Q. 今後の夢や目標を教えてください。

A. 末広がりがまちづくりのモデル地区になれるよう取り組んでいきたい。
東沖公園がそのシンボルとなり、愛称がつくような公園になればと思っている。

末広花クラブの皆さん
左から、嘉福さん、高田さん、高田さん

